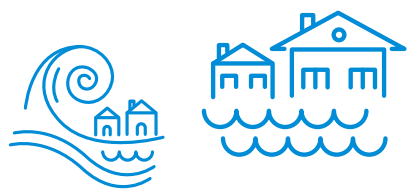


明日来るかもしれない災害への備え 豊田市洪水 ハザードマップガイド

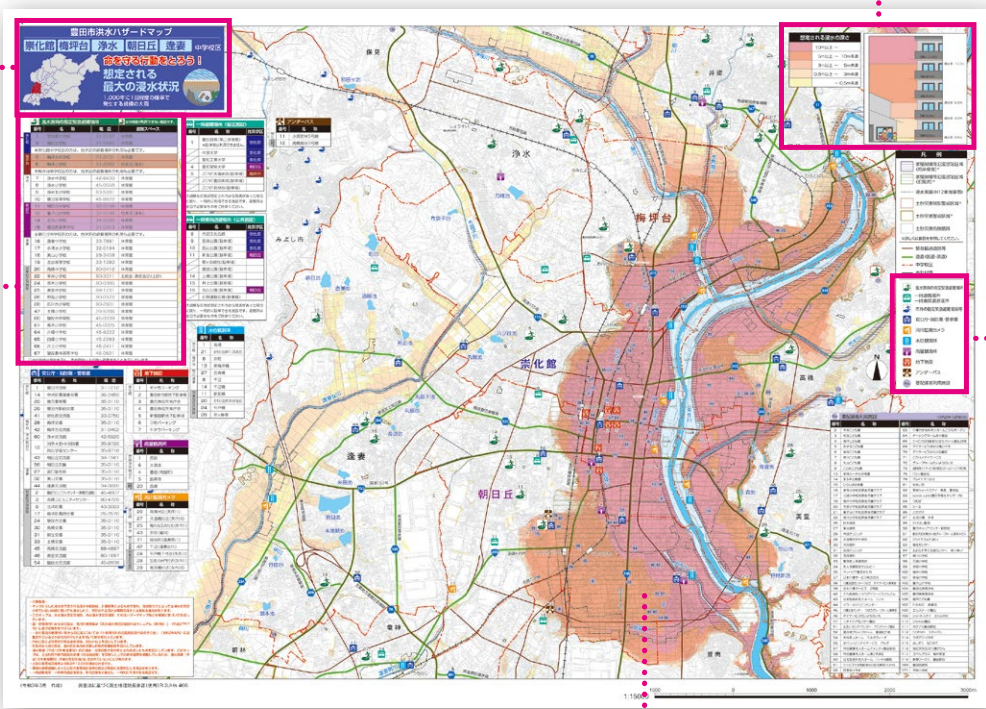
大雨が降るとさまざまな災害が起こる可能性があります。
豊田市洪水ハザードマップは、
1,000年に1回の確率で発生する規模の大雨を想定して作成しました。
このマップを使って自宅や地域の災害リスクを確認して、
もしもの時のために備えましょう。



「豊田市洪水ハザードマップ」と一緒にご確認ください。

POINT 03 想定される浸水の深さを5段階で示しています。

■表面



POINT 01 マップに掲載されている中学校区が確認できます。

POINT 02 指定緊急避難場所の一覧です。浸水の深さや土砂災害の危険区域に応じた「避難スペース」を示しています。

POINT 04 想定される浸水区域と深さを示しています。
※河川氾濫、内水氾濫、ため池の決壊による浸水を重ね合わせた最大値です。

POINT 05 大雨が降った時に生じる災害リスクを写真で紹介しています。

POINT 06 1,000年に1回程度の確率で発生する規模の大雨での被害想定です。(例：矢作川(籠川合流点より下流) 683mm/48時間)

POINT 09 避難方法や避難先について説明しています。

POINT 10 表面の浸水と土砂災害の危険箇所を拡大して示しています。

■裏面【都市部版】



POINT 07 雨の強さの違いによる浸水の広がりや段階的に示しています。

POINT 08 大雨が降った時に生じる災害リスクを説明しています。

■裏面【山村部版】



マップアイコンの説明

風水害時の指定緊急避難場所

- 風水害発生時の切迫した災害の危険から命を守るために避難する場所です。
- 避難スペースに制限がある避難場所です。○内の階数以上が避難可能スペースとなります。(例：校舎③であれば、校舎の3階以上に避難)

【市外の指定緊急避難場所等】

- 開設状況等は各自治体により異なります。避難する場合は事前に各自治体の情報を確認してください。

一時避難場所(協定施設)

大規模災害時、市から発表があった場合に限り、一時的に施設や駐車場の利用ができます。豊田市と防災協定を結んでいる大学や民間企業の施設です。

一時車両退避場所(公共施設)

大規模災害時、市から発表があった場合に限り、一時的に駐車できる公共施設の駐車場です。車中泊避難用のスペースとなります。

官公庁・消防署・警察署

交流館、消防署、交番等の施設です。

アンダーパス

鉄道や道路などの下を通過する、周辺の地面より低い道路です。大雨時に浸水が発生し、通行不可となる可能性があります。

地下施設

豊田市では2000㎡以上の地下施設を指し、地下駐車場が該当しています。周辺の水が流れ込み予想以上の浸水深になるため、早めの避難が必要です。

水位観測所

河川水位の観測地点です。WEBサイトからリアルタイムデータを確認できます。

河川監視カメラ

河川の様子を撮影しています。WEBサイトからライブ映像を確認できます。

雨量観測所

降雨量の計測地点です。WEBサイトからリアルタイムデータを確認できます。

No. 要配慮者利用施設

高齢者や障がい者など、防災上の配慮が必要な方が利用する施設です。法令により、避難確保計画の策定等が義務付けられています。

水位、雨量、カメラなどのリアルタイム防災情報はこちら



次は、実際に活用してみましょう！裏面をご覧ください。

豊田市洪水ハザードマップの使い方

“もしも”に備える!

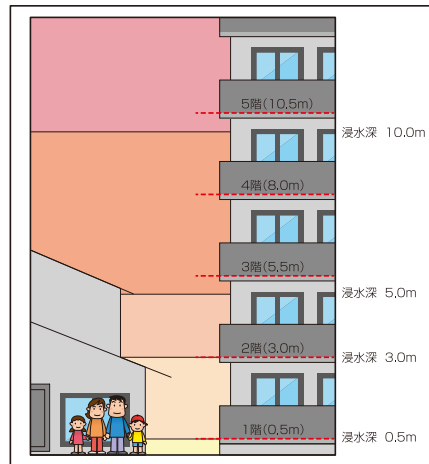
STEP 1 災害リスクを知ろう

洪水ハザードマップで自宅の位置を探して、災害リスクの有無、災害の程度を調べましょう。

想定される浸水の区域や深さを確認しよう!

洪水ハザードマップを見ると、想定される浸水の深さが5段階で表示されています。

想定される浸水の深さ	
10m以上 ~	浸水深 10.0m
5m以上 ~ 10m未満	浸水深 5.0m
3m以上 ~ 5m未満	浸水深 3.0m
0.5m以上 ~ 3m未満	浸水深 0.5m
~ 0.5m未満	



浸水の種類

河川氾濫による浸水

河川の水位が上昇し、堤防から水があふれたり、堤防が崩れたりして、まちが水につかります。



内水氾濫による浸水

水路やマンホールから水があふれたり、低い土地では水が溜まったままになります。

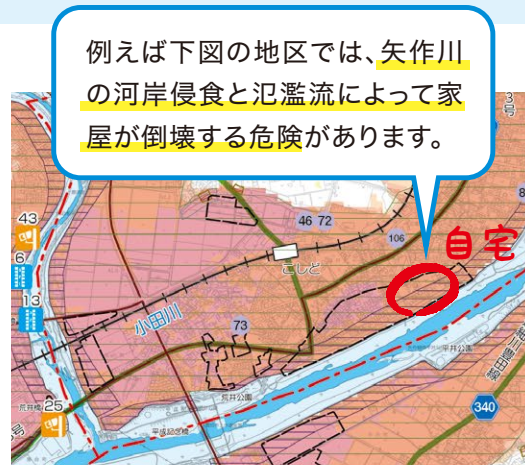
ため池の決壊

ため池が決壊した場合は、ため池の下流側で浸水が発生する可能性があります。

洪水により家が流される危険性あり!

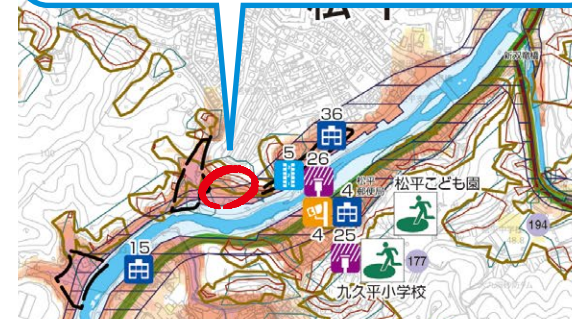
- 家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
- 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)

大規模な洪水が発生した場合、家屋が倒壊もしくは流失する危険がある区域です。水平避難が必要であり、垂直避難を避けるべき区域です。家屋が倒壊する原因は、堤防が決壊した場合に発生する激しい氾濫流や河川の流れによって護岸や堤防と共に侵食される河岸侵食などを想定しています。



山間部は土砂災害に注意!

例えば、松平では浸水に加えて、土砂災害が起こる可能性があることが分かります。



自宅にリスクがなくても、周囲の地形によっては孤立してしまう場合があるので、自宅周辺のリスクも忘れずに確認しましょう。ほかにも、勤務先や通学先なども確認してみましょう。

土砂災害の種類

- がけ崩れ
- 地すべり
- 土石流



大雨に伴って、山の斜面やがけが崩れる「がけ崩れ」、緩やかな斜面が地下水の影響などでゆっくりと崩れていく「地すべり」、崩れた土砂が雨水や川の水と混じって流れ、家屋、道路、農地が土砂で埋まる「土石流」などで発生する災害です。

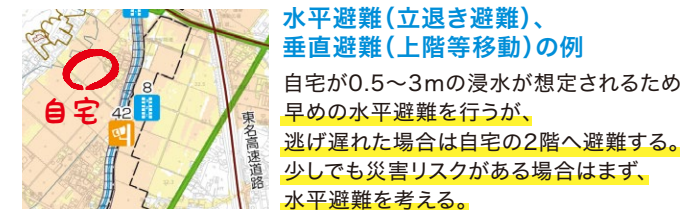
アイコン説明

- 土砂災害特別警戒区域(通称レッドゾーン)
- 土砂災害警戒区域(通称イエローゾーン)
- 土砂災害危険箇所

STEP 2 避難先・避難経路を確認しよう

大雨時の避難行動を考えよう!

STEP1で確認した災害リスクをもとに、大雨時にどのような行動を取ればよいか考えましょう。



避難先を考えよう!

家族構成や自宅の状況に応じて最適な避難先を考えておきましょう。洪水ハザードマップにアイコンが記載されている避難先は、「風水害時の指定緊急避難場所」、「一時避難場所(協定施設)」、「一時車両退避場所」です。避難先は必ずしもこの中から選択する必要はありません。

避難先の種類

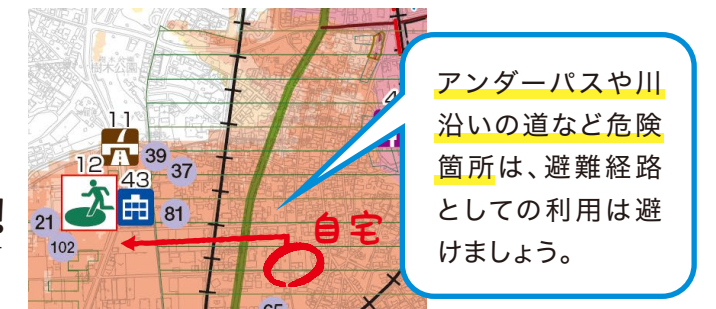
指定緊急避難場所 風水害発生時等に指定された避難場所です。指定された避難場所へ避難してください。	車中泊 指定された避難場所へ避難する場合は、防災用品(食料、水、寝具等)を準備し、安全に避難してください。
一時避難場所 風水害発生時等に指定された避難場所です。指定された避難場所へ避難してください。	自主避難場所 指定された避難場所へ避難する場合は、防災用品(食料、水、寝具等)を準備し、安全に避難してください。
一時車両退避場所 風水害発生時等に指定された避難場所です。指定された避難場所へ避難してください。	緊急避難場所(避難に命を守る場所) 風水害発生時等に指定された避難場所です。指定された避難場所へ避難してください。

避難先までの経路を考えよう!

避難先が決まったら、洪水ハザードマップ上で浸水深や道路情報などを参考にしながら避難経路を考えてみましょう。

実際に避難経路を移動してみよう!

避難経路の候補が決まったら、実際に移動してみて、避難に要する時間や避難する上で危険がないか確認してみましょう。



詳細はWEBサイトでも

豊田市洪水ハザードマップは、市のホームページでも確認することができます。WEBサイトに掲載される情報:洪水ハザードマップ(PDF版)、とよたiマップ※など
※とよたiマップ:様々な災害リスクを重ねて表示できるサービス。地図の拡大なども自由に調整可能です。

豊田市洪水ハザードマップ 検索

<https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/bousaibouhan/1031852/index.html>

